

更衣動作の自立に難渋した 視覚性運動失調の一例

A case of optic ataxia showing difficulty in closing



医療法人羅寿久会 浅木病院 脳神経内科/リハビリテーション科

坪浦ななえ (OT), 新藤和廣 (OT), 由村健夫 (MD), 三好安 (MD), 永富太一 (PT), 中川原晴美 (ST)

はじめに

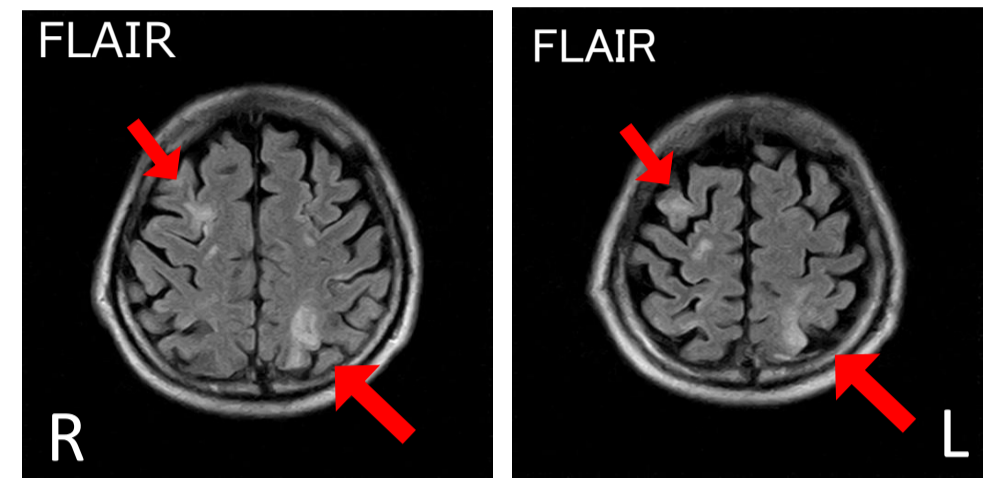
視覚性運動失調とは

1. 視覚系・運動系それぞれには障害がみられないのに眼前の指標を適確につかむことができなくなる障害.
2. 重症は中心・周辺視野での把握障害, 軽症なら周辺視野のみの障害
3. 下肢にも同様の症状が出現し得る
4. 責任病巣: 上頭頂小葉

- 下肢の視覚性運動失調によってズボンの足通しに難渋
- 目印を用いた訓練を実施し, 動作可能となった自験例

症例

70歳代 男性 右利き(矯正歴有)
60歳まで機械のエンジニアとして勤務.
X年 左上頭頂小葉・右前頭葉・左後頭葉に脳梗塞発症.
16病日に当院へ転院.



入院時現症

【精神状態】意識清明

【運動系】右Br. stage: VI-VI-III

左Br. stage: IV-IV-IV

(左腋窩神経麻痺あり)

【ゴールドマン視野検査】上1/2が欠落

【積み木課題】模倣での構成困難

【ADL】Barthel Index: 15/100点 寝返り困難.

下衣は両側下肢が通らず不可能.

【感覚系】異常なし【眼球運動】異常なし【失語】なし

【MMSE】20/30点【HDS-R】25/30点

【視覚性運動失調の検査】上下肢で中心・周辺視野に把握障害



視覚性運動失調と更衣動作の経過

下衣更衣

1日目	通常のズボン	<ul style="list-style-type: none"> 足を高く上げるが両下肢が通らない 左右を同じ穴に通すエラー
10日目	改善見られず, 目印を用いた訓練を検討	
	横ライン 	<ul style="list-style-type: none"> 口頭指示(孔の位置や下肢の方向) 履けない 本人より「見にくい」 <p>試行錯誤の過程では… 閉眼更衣・透明なズボンを試したが入口を探す段階で混乱し足が入らず訓練から除外.</p>
	縦ライン 	<ul style="list-style-type: none"> 口頭指示要す ラインを目で捉えるのに時間を要す 右足が履けた 所要時間: 5分以上
16日目		<ul style="list-style-type: none"> 入口を探す際の口頭指示は必要 エラーが起これにくくなった 所要時間: 3分
22日目		<ul style="list-style-type: none"> 口頭指示なしで動作自立 エラーなし 所要時間: 50秒
30日目		<ul style="list-style-type: none"> 所要時間12秒で下衣更衣実用レベル 目印無しのズボンでは両下肢履けなかった

上下肢の視覚性運動失調の経過

中心視野			周辺視野	
正面	右	左	右	左
×	×	×	×	×

○: 把握可能
×: 不可能

中心・周辺視野での的を外す

【中心視野】

中心・周辺視野障害あり

中心視野			周辺視野	
正面	右	左	右	左
○	○	○	×	×

改善

上肢

下肢

動作自立

周辺視野障害は残存

考察

- 視覚性運動失調による衣服操作の障害は単純な反復練習では効果は出にくい.
- 足を通すには目印を中心視野に捉える必要がある.
- 下衣更衣改善には衣服の目印として縦ラインが有効であった.
- 縦ラインは足を通す方向を示す事ができた為, 有効であったと推察する.